早生の穂肥は幼穂と葉色を確認し遅れず施用！

～異常気象に備えたコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」！～

巻農業普及指導センター

＊＊＊重点ポイント＊＊＊

○出穂期は平年より３日程度早いと予想される（下表参照）。
○出穂１か月前までに中干しを終了し、間断かん水から飽水管理に移行する。
○早生の穂肥は、分施栽培では幼穂長と葉色を確認して遅れずに施用する。
**　全量基肥栽培では、飽水管理で穂肥成分の溶出・吸収を促す。**
○斑点米カメムシ類対策として、水田内外の除草と適期の水田内防除を徹底する。

１　生育状況

・６月 20 日現在の生育状況（対指標値）

コシヒカリ：草丈「やや長い」、　茎数「並」、　葉数「やや早い」、　葉色「並」
こしいぶき：草丈「並」、　茎数「並」、　葉数「並」、　葉色「濃い」

水稲生育調査結果（６月 20 日現在　巻農業普及指導センター管内調査データ）

品種名	移植日	草丈（cm）		茎数（本/㎡）		葉数（L）		葉色（SPAD）	
		本年値	指標比	本年値	指標比	本年値	指標差	本年値	指標差
コシヒカリ	５月５日	44	109	398	102	9.2	0.4	40.5	0.5
こしいぶき	５月４日	39	99	451	98	9.1	−0.1	44.5	2.5

※コシヒカリは、巻普及センター管内 19 ほ場、こしいぶきは５ほ場の平均値

２　出穂期予想（６月 20 日現在）と穂肥施用

（１）早生品種の分施栽培　　：幼穂長と葉色を確認し、遅れないよう２回施用する。
（２）早生品種の全量基肥栽培：穂肥時期は**飽水管理で穂肥成分の溶出・吸収を促す**。
（３）後期栄養確保の対応（分施栽培、全量基肥栽培とも）
　：**葉色が目安より淡い場合やその後の低下が予想される場合は、出穂期頃までに窒素１～２kg/10a の追肥**を行う。

＜幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥時期の目安＞　※移植日・直播は種日：５月３～５日頃を想定

品種名	幼穂形成期[注1] 月/日	出穂期[注1] 月/日	穂肥時期 月／日(出穂期前日数)		２回目穂肥時期の葉色めやす(SPAD)	２回の合計施用量[注2] N kg/10a
			１回目	２回目		
五百万石	6/24	7/17	6/27(20)	7/5(12)	38	1.0～2.0
わたぼうし	6/26	7/19	6/27～29(22～20)	7/7～9(12～10)	38	2.0～3.0
ゆきん子舞	6/27	7/20	6/25～27(25～23)	7/6(14)	36～38	4.0～6.0
こしいぶき	6/29	7/22	6/29(23)	7/8(14)	36.5	2.0
こがねもち	7/5	7/28	7/10～13(18～15)	7/18(10)	32	1.0～3.0
連休植コシヒカリ	7/9	8/1	7/14～17(18～15)	7/22(10)	32	1.0～3.0
5/10 植コシヒカリ	7/11	8/3	7/16～19(18～15)	7/24(10)	32	1.0～3.0
直播コシヒカリ	7/15	8/7	7/20～23(18～15)	7/28(10)	32	1.0～3.0

注１：幼穂形成期は、幼穂長 1㎜を超える茎が調査区全体の８割以上を占めた日で、出穂期の 23 日前頃。
　　幼穂形成期・出穂期予想は、天候により前後するので、幼穂や生育状況をよく確認する。
　　移植日が５日前後すると幼穂形成期・出穂期は１～２日前後する。
注２：砂壌土などの地力の低いほ場では、窒素成分で１kg/10a 程度多めに施用する。

＜穂肥診断＞　～穂肥時は幼穂と葉色を必ず確認し遅れずに施用！～

１回目穂肥時の生育量の目安

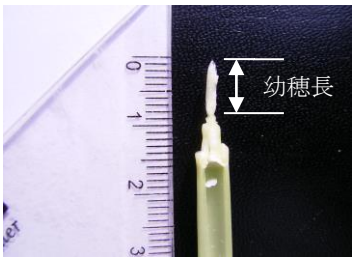
	こしいぶき(出穂期 23 日前)	注意点
幼穂長 草　丈 茎　数 葉　色	0.1 cm 55～60 cm 29 本/株（60 株/坪植） 35～37（SPAD 値）	葉色が 37（SPAD 値）より濃い場合は、１回目を施用しない。

＜幼穂長と出穂前日数＞（こしいぶき）

出穂前日数	幼穂長
30 日前	0.02 cm
24～23 日前	0.1 cm
20 日前 18 日前	0.2 cm 1.0 cm

確認

〔幼穂の確認方法〕



（早生は幼穂長 0.1cm を確認後、遅れずに１回目穂肥を施用）

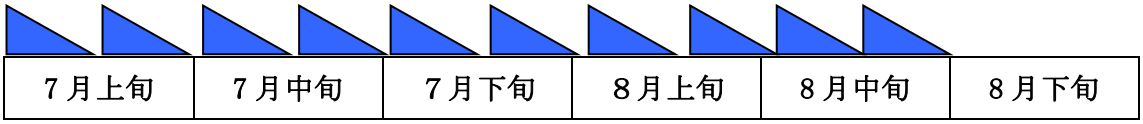
３　水管理　～　早期落水厳禁。品質重視の水管理を徹底！　～

・中干しは、出穂期の１か月前までに終了する。
・中干し後は、間断かん水から徐々に飽水管理に移行する。
・出穂期 25 日後までは確実に飽水管理を継続し、登熟向上を促す。
・フェーンや異常高温が予想される時は、予め湛水して障害の発生を防止する。

飽水管理：水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がなくなり始めたらかん水する管理

◀－－－－－－－－－－－－－－ 早生品種の飽水管理期間 －－－－－－－－－－－－▶

▽幼穂形成期　→→→→→→→→→→ ▽出穂期　→→→→→→→→→→→→ ▽出穂期 25 日後



４　病害虫防除　～暖冬年は越冬数が多く、カメムシ類による斑点米被害に要注意！～

（１）斑点米カメムシ類

①　除　草

・農道・畦畔の草刈りは、雑草が結実しないようにこまめに行う。特に、早生品種の出穂前となる７月中旬には、必ず実施する。
・本田内のノビエやホタルイはカメムシ類の増殖場所となるので、本田除草も徹底する。

②　本田防除

・本田防除は出穂期３～７日後に、ほ場全体へ薬剤散布を行う。
・水面施用粒剤は、水深３cm程度の浅水条件で散布し、７日間は落水しない。
・共同防除の実施日が出穂期から 10 日以上空くほ場は、上記防除を追加する。
・薬剤により散布適期・回数が異なるため、薬剤の使用方法を確認すること。

（２）紋　枯　病

・昨年発生が多かったほ場では、薬剤の使用時期を確認し、適期に予防粒剤を散布する（箱施用剤で防除している場合は、この時期の防除は不要）。
・特に、多発生しやすいわたぼうし、ゆきん子舞、こしいぶきは発生に注意する。

（３）墨 黒 穂 病

・わたぼうしは発病しやすいため、必ず適期に予防防除する。